

せたがや 町総連だより

第 55 号

発行 世田谷区町会総連合会

世田谷区若林 4-31-9 ポライト第2ビル202

☎・FAX 5481-3456

編集 情報誌編集委員会

編集委員長 堀江 義之

地域情報

世田谷地域

待ち望まれる平穏な生活

駒沢親和会 会長 白 須 勝 敏

私どもの町は大きな道路、国道246号に面し、南北に分かれて立地しております。また西側に片側一車線の道路一本で世田谷地域と玉川地域に分かれて、私どもの町会に加入していただいておりますが、お子さんは玉川地域の学校へ通っていらっしゃるご家庭と、逆に世田谷地域へ通ってるご家庭もいらっしゃいます。

町会の行事としては、「夏休みラジオ体操」と銘打って駒沢小学校の校庭をお借りし、世田谷区ラジオ体操連盟より、指導員のご指導をいただき、毎日100名を超える参加者、また町会を超えた参加者もお越しです。



夏休みラジオ体操の様子

他の行事では「盆踊り大会」を同じく小学校の校庭で2日間行っております。盆踊りにはつきものの太鼓には1年生から6年生の児童から希望者を募り約65名が参加、1ヶ月間日曜日の



盆踊り大会の様子

午前中に練習し、当日校庭の中央に設営したヤグラの上で叩いています。ヤグラの設営から撤去まで保護者のご協力をのほか、学校の関係者、地元睦会、勿論町会役員の皆さんのお手を借りて、また教職員、保護者の有志、睦会で夜店を出していただき、手作りの盆踊りを開催しています。

2日間の開催で延べ2,500名を超える来場をいただき、このような行事を通して町会、教職員の方々、保護者、睦会の皆さんと温かいお付き合いをさせていただいております。

町なかを見ますと田園都市線駒沢大学駅があり、近年近隣には分譲・賃貸を問わずマンション建設が進み、空き地があると瞬く間にマンション建設の工事が始まっております。駅近くに住宅公団が老朽化により民間に払い下げられ、今解体工事中で5年後完成の予定です。駅の近

くでの工事で歩くのにも不便を感じております。また某大手広告代理店が所有していた社員寮、野球場・テニスコートを含めた土地が売却され、350世帯のマンションが建設予定です。工事関係車の出入りも多くなってしまいそうです。

従来の一戸建て住居が少なくなり、いらしゃってもお年寄り世帯が多く、町会活動にも差し障りが出てきております。

この様な状況の町会ですが悩みも多く、3階建ての50年近く経過した会館を保有しており、立て替えもままならない状況です。会員加入率

も居住者世帯の50%を切っており、何とか会員加入者を引き上げたい。また多くの町会・自治会と同じかも知れませんが、役員の人員不足・高齢化と多くの問題を抱えているのが現状です。

現在世間を席卷しているコロナウイルスにより、なかなか思うような活動ができないでいますが、役員一同力を合わせ活動を進めていきたいと思っております。誌面の都合で2つの事業のみのご紹介となりましたが他にも防災・避難所訓練他の事業も行っております。

北 沢 地 域

防災対策やらずして「安全安心のまち」は無い

桜上水2丁目町会 会長 真 田 佳 明

桜上水は旧上北沢村の中心部で、名主の鈴木左内邸の牡丹園は、江戸時代の浮世絵で三十六花撰「北沢 牡丹」（広重の高弟で二代目広重作）にも残り、密蔵院の彼岸桜、榎本平蔵家の藤棚など花盛りの場所でもあった。現在は木造住宅密集の農地が残る住宅地です。地盤が良いのか地震時でも他の区内よりも揺れが少ないと感じています。

しかしながら防災・防犯は「安全安心のまちづくり」には欠かせません。その対策として「東京都の地域の底力」助成金を活用して、町会活動を整備することにしました。

災害時要援護者協定も結んでいたもので、2015年度は安否確認訓練を計画しました。インターネットで調べたら相模原市が良く活動しているのを知り、指導をいただき「幸せの黄色いハンカチ」に因み、黄色い小旗を会員数購入し、配布（黄色は波長の関係で「一番確認しやすい色」であり、被災混乱時に道路から安否確認が容易になる）。

2016年は無線機を9台購入。被災時に被害状況の早い確認と役員間での交信が必須と認識し、現在でも毎週交信・連絡を継続しています。また若い母親を対象に、乳幼児への救急救命講習を実施。

2017年は無線機の電源が連続使用12時間なので、ソーラーパネルと充電器を準備。また負傷者搬送用に担架用のリヤカーと携帯型の拡声器を準備。負傷者を搬送するにはリヤカーなら1人で1人を運べる。

2018年は災害時井戸水供給の家の生活用水を飲料水に変えるべく、RO浄水器を準備。その水を使い、避難所から借りたバーナーを使用し湯煎でお汁粉を作り、被災時の食を体験しました。2019年は自衛隊で使っていると言うバーナーと寸胴鍋（50リットル）を2セット用意し、在宅避難している人の食事情対策をサポートしました。自宅の備蓄食も被災時には温かいものが、心理的にも安心感をもたらします。

効率よく、大人数分を限られた量の生活用水、燃料で温めるときには湯煎用の袋で30分程度熱湯につけておくことで炊きたてのご飯や炊き込みご飯もできあがります。こうしたときは、できるだけ自分の名前を記載しておくことも必要です。レトルト食品も同様です。

2020年、2021年はスタンドパイプを3基ずつ導入したことで、8基になり、町内の8箇所の消火栓近くに配置しました。

消火栓を中心にして「共助」で初期消火を徹

底する。自分の町内の初期消化は自分で責任をもつ。「共助」ではありますがこうした考えも大切にしていきたいと考えます。町会は任意団体ですが、同時に「共助団体」です。「共助」

無くして災害は乗り切れません。また町会は町会員の為の会です。加入率を極力100%にして「安全安心のまち」にしたいと努力しています。

玉川地域

「いつまでも私たちの町の魅力ある風景を」

奥沢交和会 理事長 塩谷良一

私たちの町会「奥沢交和会」は、奥沢1丁目～3丁目で、世田谷区の南東に位置する一番端になります。大田区と目黒区に接しており、「防災では情報を共有しましょう…」と、近隣町会として話し合ったこともあります。敗戦で真っ暗になった町を明るくしようと、戦後の昭和21年に地域の先輩方が、警防活動を始められたそうです。そして昭和22年5月に奥沢神社の社務所で「設立総会」を開催し、町会活動が開始されたと記録されております。

緑豊かな町並みがある奥沢2丁目には、「海軍村」と呼ばれるところがあります。大正12年の「関東大震災」のあと、山手線の外側に住む人が多くなり、私たちの町には海軍省のある虎ノ門と軍港がある横須賀の中間点にあるということでここに住む海軍の上級将校が多くなりました。2丁目に住む地主の方が独力で、区画整理をしてくださった町は、土地も安く住みやすいと、若手将校の寄宿舎なども建ち、やがて陸軍の将校も住むようになったそうです。昭和になって30軒ほどになり、今でも当時の面影を残すシュロの木や住宅が3軒ほど残っています。また、緑も住民の子孫により守り育てられています。

中央の世田谷区役所からは遠いせいか、地域行事は盛んです。毎年1月には、町内の中学校で開催される「新春奥沢地区まつり」があります。ここには56の団体が参加をして、「小学生子どもマラソン」「PRコーナー」「模擬店やゲームコーナー」などで、大勢の来場者で賑わいます。奥沢地区内の東玉川町会の皆さんとも

力を合わせ実施しておりますが、この2年間は、残念ながらコロナ禍ということで、開催中止になっています。

「お花見会」や大変多くの来場者を得て開催される「納涼盆踊り大会」など、この2年間は、人が集まる事業のほとんどが中止になりました。こんな中ではありましたが、町会内の住民の安全と安心に関わる事業は、実施することができました。



「盆踊り大会」には大勢の来場者が (2019年)

平成7年の「阪神淡路大震災」のあと、「災害時要援護者支援委員会」を組織して、もしもの時の見守り活動をしています。これは、1人の要援護者を複数の協力員での見守り・安否確認です。200人ぐらいの「避難行動要支援者」(災害時要援護者)を、2人以上で見守ります。毎年、町内の高齢者宅など約1,300世帯を調査します。その結果をもとに作成した名簿を、毎月の町会理事会で確認し、引越しや入院などで移動があった場合には、必ず更新をしています。

そのほかには、平成29年度よりはじまった「奥

沢の風景を考える」界わい形成地区指定に向けた活動があります。町内は、速いスピードで宅地の建て替えが進み、町並も少しずつ変化してきています。緑を増やし建物の色彩などを考える。私たちの町の魅力ある風景を守り育てる手立てについて、町内の皆さんで考えようとしています。このことにより、私たちの町の魅力ある風景を守り育て、次世代を担う子どもたちに引き継いでいこうとしています。



奥沢の風景を考える「風景祭」の様子

町総連ニュース

表彰 ▼令和4年6月16日 東京都町会連合会表彰

今年度は下記の3名が被表彰者となり6月16日(木)に表彰式がありました。今までのご活躍に敬意を表するとともに、今後ますますのご活躍を期待します。

上田 啓子 副会長 (赤堤1丁目町会 会長)

白須 勝敏 常任理事 (駒沢親和会 会長)

鎌田 嘉次 常任理事 (用賀町会 会長)

※次号は砧地域・烏山地域の情報を掲載します。

編集後記

一昨年の冬から始まった新型コロナの流行、当初はお花見前には収まるのでは、8月の盆踊りには、9月の秋祭りには、と希望的な予測をするなか、既に三年目となってしまいました。この間、町会・自治会関係の行事は中止、規模を縮小しての実施等となり、当編集委員会も書類による開催となっています。会社・学校ではリモートによる勤務・授業が導入されるようになりました。町会・自治会関係の会議でも書面審査が多くなり、情報の提供も電子メールによる伝達も多用される方向と思われます。

町会・自治会に於いては役員の高齢化、会員の減少、掲示板の減少と問題を抱えているなか、スマホは苦手とも言い続けられない時期かと思うようになりました。印刷による情報伝達と電子媒体による情報とでは各々一長一短があると思います。今後の町会、自治会活動も両者を旨く活用する時期かと遅まきながら思うようになりました。

編集委員 北沢中央自治会 上野 民雄

世田谷区町会総連合会のホームページ

世田谷区町会

検索

※QRコード



バーコードの一種で、携帯電話で撮影して、簡単にホームページを見ることができます。